

中谷 健太郎

由布院温泉亀の井別荘社主

全国に沛然と「エコ・ツーリズム」運動が起こりますように。

そのためには、あちこちの地域から自律的な運動が立ち上がってくるのが望ましい。一人では地域の力を発揮できないから「仲間たち」「各種団体」「地区共同体」等に通底する価値観が必要になります。

それ等は「自然の恵みを欣ぶ感情」とか「少しのオカネで豊かに生きる技術」とか『『ココ』と『ソコ』と『アソコ』を組み合わせて生活圏を『広域連携化するシステム』』とかの「後背・周辺事業」に支えられます。そんな視点から、10項目の提言を書いてみました。

1. エコツーリズムの運動を地方で続けるために事務所が要る。N・P・OやT・M・Oなどを創設するにしても自治体、公共団体等の人材が大事な存在だ。専門教育を急いで、運動の実施と、「自治体の縮小」に備えて欲しい。
2. 「用途指定」をつけて私有地を寄附するための、簡便な条例づくりを指導して欲しい。現在は辛うじて「道路空間」の寄附が認められるだけで、「境界緑地」などについては積極的に受け入れられることがない。
3. 地方の委員が中央政府の会合に出席して「孤立」しないよう、関係団体の代表、あるいは受託者という資格の上に立つ仕組みにして貰えまいか。(地方に帰ったら「独りぼっち」です)
4. 「市町村合併」によって生まれる「新市」では、旧地区の景観計画等が不安定になりやすい。それを安定させるために環境省が指定する「特定保全地区」が考えられないか。
5. 生活の中に「エコ・ツーリズムの思想」を育てるために「少しのオカネで、豊かに暮らす」事例を調査して表彰してはどうだろう。
6. 水俣の吉本哲郎氏が実践している「地元学」に学び、地域の事業展開をはかってはどうだろうか。
7. 「水源」と「温泉源」を保全する「周辺整備事業」を「地域指定」して、関係省庁と連携プロジェクトを組めないか。

- 8 . 二つに分かれている(ように見える)「ナショナル・トラスト」の組織を統括して、「エコ・ツーリズム」運動の事務母体に出来ないだろうか。
- 9 . 都市を中心にした「景観学」とは別に、農村を中心にした「風景学」を立ち上げて、そこから「風景行政」を始められないだろうか(例えば「雑種・原生種の保全・育成地指定」とか、そういったこと)
- 10 . 「温泉保養」「医療保養」に並べて「農村保養」の概念を立ち上げ、関係省庁とはかって「モデル地域」の指定ができないか。

以上。